

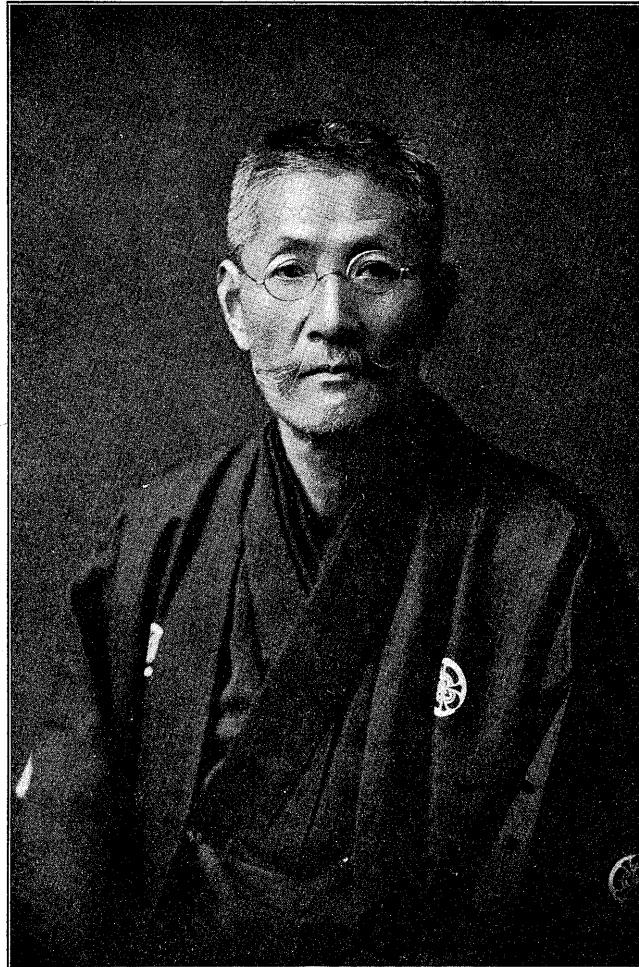
ラル、モノハひるぎ科即チ *Rhizophoraceae* ノモノデ内地デハ之ヲ實見スルノ機會ガ少ク多クハ唯僅ニ圖畫ニテ之ヲ知ルニ過ギナイ有様ナノデアル、なつみかんノ如キモ其果實内ニ於テ種子ノ萌發シテ幼根ヲ數寸ノ長ニ伸スコトヲ見レドモ、直ニ之ヲ胎生果實ト同一視スルノハ稍穩當デナク聊カ類似シタル現象ト見做スベキデアラウ、然ルニ茲ニ普通ノ邦產植物デ此ノ實例トシテ適當ト思ハル、モノガアル、即チからたちばな (*Ardisia punctata* Lindl.) ガソレデアル、此植物ハ陰地ニ生ズル小灌木デアツテ其紅熟シタル果實ハ越年シテ頗ル美シイモノデアル、ソレガ初夏ノ頃ニ至レバ繖形ヲシタル果柄ニヨリテ母樹ニ着キタル儘發芽シ其胚軸ハ伸ビ幼根ハ破レタル果皮ノ外ニ現ハレ終ニ寸許ニ達シテ下垂シ而シテ自然ニ果柄ヲ離レテ落チ根ハ地中ニ穿入シテ漸次生長スルニ至ルノデアル、從テ母樹ノ下ニハ落チタル多數ノ果實ヨリ發生シタル幼植物ガ叢リ生ジテ居ルヲ見ルノデアル、私ハ此ノ事實ヲ昨年七月十九日ニ初メテ知ツタ

插圖ノ解

1. 2. 果柄ニ着キタル儘幼根ヲ出シタルモノ
3. 1ノ果實
4. 右ヲ廓大シタルモノニシテ、根ノ分歧シタルモノ
5. 果皮ヲ去リタルモノ
6. 胚ト胚乳トヲ分離シタルモノ

【牧野云フ】 らかんまきノ實カラモ樹上ニ在リナガラ時々幼根ヲ出シテ其レガ能ク種子下ノ赤色多肉ナル果托ニ突キ込ンデキルノヲ見受ケルガサウシタ現象ノ現ハル、樹ハ毎年其時期ガ來レバヤハリ同ジ事ヲ繰リ返シテキル

○我邦最古且ツ創刻ノ園藝書『花壇綱目』



不崩岡吉壽

ヨシヒサ

本文ノ筆者ナル岡吉壽君(號不崩)
(昭和四年一月一日東京ニテ撮影)

ニ傳ハリタルモノナ
リ、予ガ知ルトコロ
ニヨレバ、甲本、寛
文四年ノ序アルモノ
(予ガ架藏)、乙本、序
文ナク延寶九年六月
ノ識語アルモノ
(野宗幹氏藏)、丙本、
野宗幹氏藏)、丁本、寛文五年
ノ序アルモノ
(牧野富太郎氏
藏)、
ノ序アルモノ別本
(芋繁、奥村繁次郎
氏舊藏)等數本アリ、
刊本ハ上中下ノ三卷
ニ花壇用ノ草花ヲ四
季ニ分チ上卷ハ春ノ

部三十五種、夏ノ部八十一種、中卷ハ秋ノ部五十七種、冬ノ部五種、雜ノ部六種ヲ各品類ニ就テ 花色、花形、花期、及ビ養土、肥料、分植等ヲ記シタルモノニシテ園藝上最モ貴重ナルモノナリ、下卷ハ諸草ヲ養フベキ土質及肥料ニ就テ詳記シ加フルニ牡丹、芍藥、菊、椿、梅、桃、櫻、躑躅ノ變種、花鉢、花形付ヲ記シ、終リニ牡丹及蘭ノ培養法ヲ詳記セリ

本書ハ元祿四年ニ同一版木ヲ以テ奥附ヲ改メテ發行シ更ニ享保元年ニ全部改刻シテ發行セラレタリ、而テ其内容ハ延寶九年(天和改元)ノ初刊本ト同一ナルノミナラズ其行數字詰字形マデ全ク同ジク只享保本ハ其型稍小ナルノミ、要スルニ奥附ヲ改メタル元祿四年本モ版本ヲ異ニセル享保元年本モ内容ニ至リテハ全ク延寶九年版ト同一ナルヲ知ルベシ、然ラバ本書ノ記事ハ奥附ノ如何ニ關ハラズ延寶年代若シクハ其以前ニ於テ記述セラレタルモノナリトス、今本書ノ出版セラレシ前後ニ於ケル園藝書ノ刊行ニ就テ見ルニ先ヅ

錦繡枕

伊藤伊兵衛著 元祿五年開版 横本五冊

躑躅 皐月ニ關スル著書トシテ一般世人ニ知ラル長生花林抄ノ原本ニシテ書名ハ自序ニ「暫時塵室を仙家のごとく思ひ肘をまげたる枕のうち錦の床の手枕となん樂むらんかし」ト、以テ錦繡枕ト名ヅケタルナリ、つゝじ、さつきノ種類ヲ著者自カラ圖記セルモノナリ

奥 附

元祿五年申初冬

江戸染井

さり鳴屋

作者自畫

伊 兵 衛 印

書林

松會三四郎開板

長生花林抄ハ内容全ク同ジク、各冊ノ内題錦繡枕卷(數)ヲ削リタルモノ、序文ヲ改メ「古にいはく肘をまげて枕とす樂其中にあり僕がたのしみは花なり紅の色／＼ある中に一花數品の變化あるものは躊躇さりしまさつきなり其かたちを委く書き接木または土かひ養ふことまでを書あつめ一卷の草紙となし錦繡枕といふをある人壽によせて長生花林抄と號けるに亦ある人の言葉にまかせ三花類葉集とあらため梓にせし事同志にあらざる人のそしりをもとむるならんか是すなはち僕がたのしみ其中にありと見ゆるし給へかしとかいふ

東都 染井の翁 謹白

○ □

即チ本書ハ元祿五年ニ錦繡枕トシテ出版サレシヲ凡四十年ノ後チ享保十八年ニ外題ヲ長生花林抄ト改メテ同ジ版木ニテ再刷シ更ニ又嘉永二年ニ改補セシモノナリ

花譜

貝原益軒著

元祿十一年梓行 上中下三冊

此書「元祿七年中元日ノ自序アリ「嘗て聞見するところと驗閲するところとを纂輯して花譜三卷を作り以て之が種植と培養の法を述ぶ」云々トアリ

奥附

元祿十一年戊寅九月日

東洞院通夷川上ル町

林 九兵衛

高辻通雁金屋町

永原屋孫兵衛

我邦最古且ツ創刻ノ圖藝書「花壇綱目」

同梓行

花壇地錦抄 染井三之烝著 元祿八年刊行 六冊

松賀浦ノ藏六ガ元祿七年ノ序「難波の芦伊勢のはま荻」云々トアリ(地錦抄ニ就テハ別ニ詳記スベシ)

奥附

武陽染井野人三之烝集

元祿八年

車屋町夷川角

三

之

烝

集

大傳馬三町目

林

久

次

郎

志

村

孫

開版

農業全書

宮崎安貞著

元祿九年

十一冊

此書元祿丙子中和節、貝原篤信序漢文及著者ノ自序アリ、時ニ元祿九年仲冬ノ後日ナリトアリ、篤信ノ序ニ「今將に梓ニ録むて以て其傳を廣めん、序を予ニ請ふ、安貞今茲七十有五、余其志を爲す老て益壯なるを感ず」云々、トアリ、後序ハ漢文ニテ「元祿丙子桂月日、後學筑前州貝原好古書」トアリ

千代見草

西京園丁著

元祿十二年 上中下三冊

菊ノ道シルベ千代見草序ニ「元祿十あまりふたとせ秋のすへ菊を探日 西京園丁記」トアリ、記スルトコロ總論、菊ノ年中行事、菊ノ功用、菊ノ故事以上、菊ノ和歌、詩文、本朝菊ノ名品、唐土名品以上、葉形花形各八十一品下卷

奥附

牡丹道知邊

杉浦宗閑著

京師桃華坊書肆
元祿十二年上下二冊富倉太兵衛
人見喜兵衛
繡梓

本書ハ牡丹ノ培養ニ就テ項目ヲ六十七條ニ分チテ詳細ニ記述シタルモノニシテ唯一ノ牡丹培養書ト謂ツベ
ク、又著者ノ序文ハ園藝史ノ志料タルノミナラズ、當時牡丹栽培ノ實狀ヲ知ルヲ得ベシ、播陽散人杉岡氏
梅陰軒トアリ、跋文ハ「元祿十二のとし陸月の日青白翁我黒跋」トアリ

奥附

書林 梅村玉池堂雙梓

柳田好古堂

艸花繪前集

染井ノ伊兵衛圖
元祿十二年梓

上中下三冊

「自序元祿己卯小春ノ日武陽染井ノ野夫書之」トアリ、奥附ハ

追而 草花繪後集此外草花品々令板者也

草花植作り様やしない仕様は地錦抄といふ草紙にして前に出すゆへ是に不書

元祿十二卯十月吉日

東武江北染井

耕人伊兵衛圖

須原茂兵衛梓

以上ノ數種アリト雖モ本書刊行以前ニハ未ダ刊本アルヲキカズ、然ラバ本書ハ園藝書トシテ我國最初ノ出版書
タルノミナラズ寛文四年ノ寫本ノ傳本ハ最古ノ園藝書トシテ園藝史上特筆スベキモノナリトス、是ヨリ先キ元
和寛永ノ頃、安樂庵某ノ百椿集ナルモノアリ、載テ續群書類從卷第九百四十二アリ、變種ヲ集メ一品毎ニ詩歌

ヲ配セリ、而シテ刊行本花壇綱目ハ百八十餘種ノ草花ニ就テ一々花色、花形、花期、及養土、肥料ヨリ分植ニ至ルマデ記載セル、何レモ著者ノ實驗ヨリ出デタルモノニシテ其心勞思フベキナリ、又下巻ノ牡丹、芍薬等ノ花形付ケヲ見テハ其時代ニ於ケル園藝上ノ進歩ヲ測定スルヲ得ベシ、即チ

牡丹ノ變種

四十一品

椿

六十六品

桃

八品

躑躅

百四十七品

芍薬ノ變種

三十二品

梅

五十三品

櫻

四十品

四十品

何レモ「此花形付けの外ニ數多あり」云々ト記セリ、即チ是等ノ種類ノ變種ハ延寶以前ニアリテ培養サレタルモノト知ラルベク又此時代ニ於テ四季ノ草花ノ培養ヲ一々詳記セルハ殊ニ珍トスベキナリ、延寶九年即チ天和元年ハ今ヨリ二百五十年前ナリ

花壇綱目

(延寶本)

三冊

水野元勝

延寶八年(天和改元)

堅七寸五分 橫五寸四分

著者

刊行

表題

製本

紙

花壇綱目

花壇綱目

花壇綱目

花壇綱目

子持四周堅四寸九分 橫一寸一分

花壇綱目 上楷行草

四周單邊堅五寸五分十五寸九分 橫四寸一分一四寸二分五厘

著者

刊行

表題

製本

紙

花壇綱目

花壇綱目

花壇綱目

花壇綱目

上二十五張 中十五張 下二十張

序文平假名交四張年號記名ナシ、題畫每卷一頁、上卷ハ目錄ノ前ニアリ、牡丹ノ繪「名はかりはさかても色を
ふかみ草花咲ならは何にみてまし」、中卷ハ目錄ノ次ニ梅ノ繪「咲つゝくあまた梢の梅が香をひとへになりて
匂ふ春かぜ」、下卷モ目錄ノ次ニ、櫻ノ繪「春毎にみれともあかす櫻はなとしにや花の咲まさるらん」トアリ

奥附 下卷三十張裏

花段綱目卷下終

水野氏元勝

延寶九年夏吉旦

松井賴母後益志之

村井九良兵衛
山本八兵衛
開板

三冊

書林

村井九良兵衛
山本八兵衛
開板

花壇綱目

(元祿本)

著者 水野元勝
行圖 元祿四年

三冊
豎七寸三分
横五寸一分

著表製刊

匡郭 簽紙 本圖
行數 張數 前揭本ニ同ジ
附 『逸ス』

我邦最古且ツ創刻ノ闡藝書『花壇綱目』

花段綱目卷下終

元祿四辛未年仲冬吉辰

水野氏元勝

書林

淺野久兵衛
九良兵衛
村井良兵衛
山本八兵衛

本書ハ前掲延寶本ト同一版本ヲ用ヒ只奥附ニ於テ年號ヲ改メ松井賴母云々ヲ削リ書林一名ヲ加ヘ開板ノ二字ヲ刪リ去リ年號ヨリ以下四行ヲ改刻セルモノナリ

花壇綱目

刊著者 水野元勝
享保元年

三

堅七寸四分五厘 橫五寸二分五厘
子持四周 堅四寸七分 橫一寸〇五厘

目上

四周單邊
堅五寸四分
五寸六分
橫四寸
分餘

十
行

上卷二十五張 中卷十五張 下卷三十張

上巻表紙見返シ

上巻表紙見返シ

柳櫻ノ繪中央題簽トシテ二重匡郭内ニ

『華壇綱目』

トアリ、序文平假名交文四張、年號記名ナシ 次ノ一頁ニ牡丹ノ繪題詠前掲本ニ同ジ、次ニ目錄二張半アリ、内題『花段綱目卷上』トアリ、春ノ部ト夏ノ部ヲ收ム、中卷ハ初メニ目錄二張半、次ニ一頁梅ノ繪並ニ題詠、秋ノ部冬ノ部雜ノ部ヲ收ム、下卷ハ初張ニ花段綱目卷下

目錄

一諸草可レ養土の事	一梅珍花異名の事	一諸草可レ肥事	一桃珍花異名の事
一牡丹珍花異名の事	一櫻珍花異名の事	一芍藥珍花異名の事	一躑躅異名の事
一菊珍花異名の事	一牡丹植養の事	一椿珍花異名の事	一蘭植養の事
トアリテ、次ノ頁ニ櫻ノ繪題詠、凡テ前掲本ト同ジ	奥附最終(三十張ノ裏)		

享保元丙申年菊月吉旦

水野氏元勝

松井賴母後益志之

大坂心齋橋筋順慶町

柏原屋與左衛門

次ニ大坂書林森本文金堂(河内屋太助)藏版目錄一張ヲ附ス

本書ハ前掲二本ト内容凡テ同ジク且ツ書體モ殆ンド同一ナレドモ匡郭ニ大小アリテ文字モ又自ラ大小アリ、前掲二本ハ同一版木ナルモ本書ハ其後改刻セラレタルモノナリトス(ツヅク)